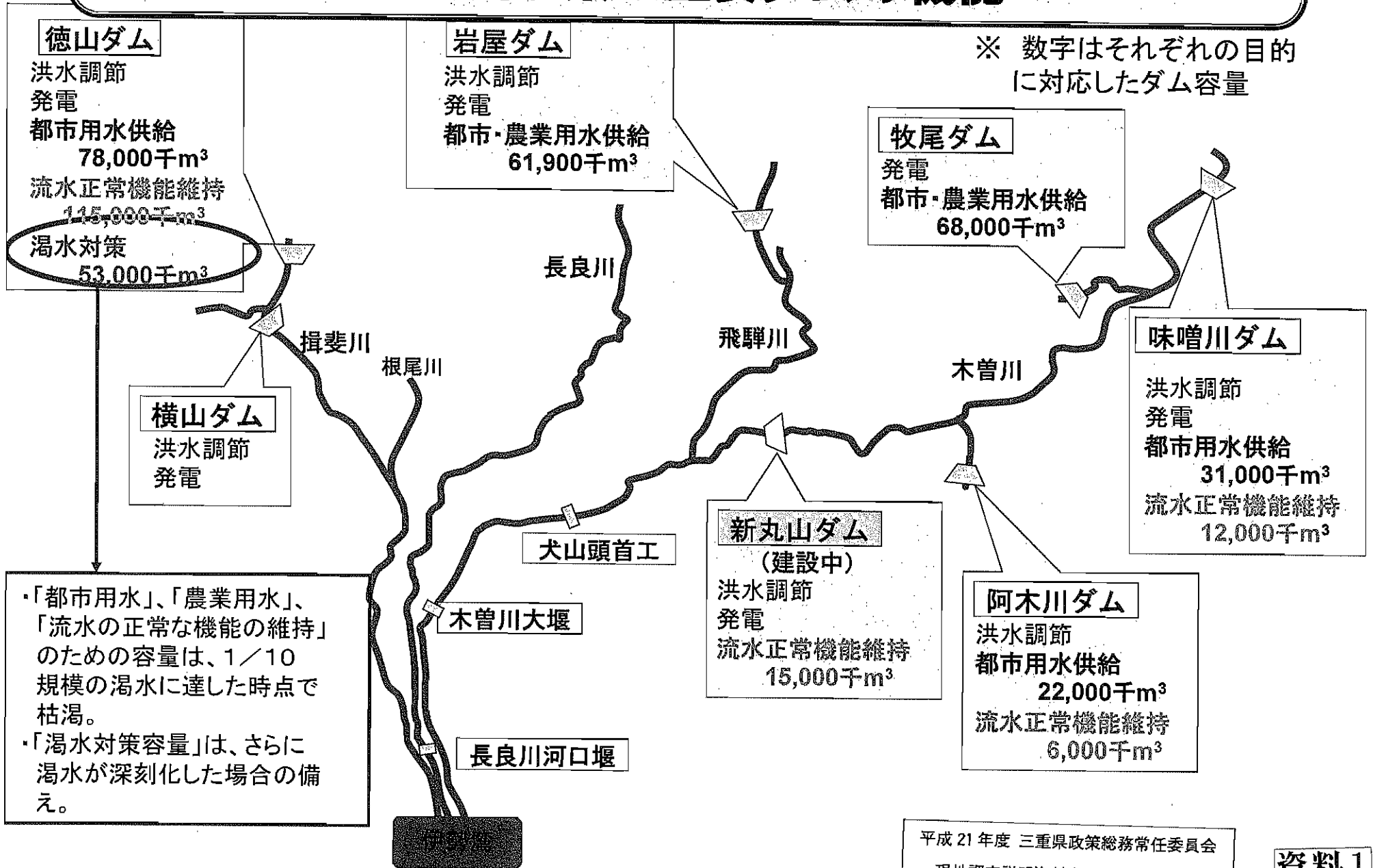


(別冊)

木曾川水系連絡導水路事業について
【資料集】

木曽川水系の主要ダムの機能



平成 21 年度 三重県政策総務常任委員会
 現地調査説明資料(水資源機構作成)

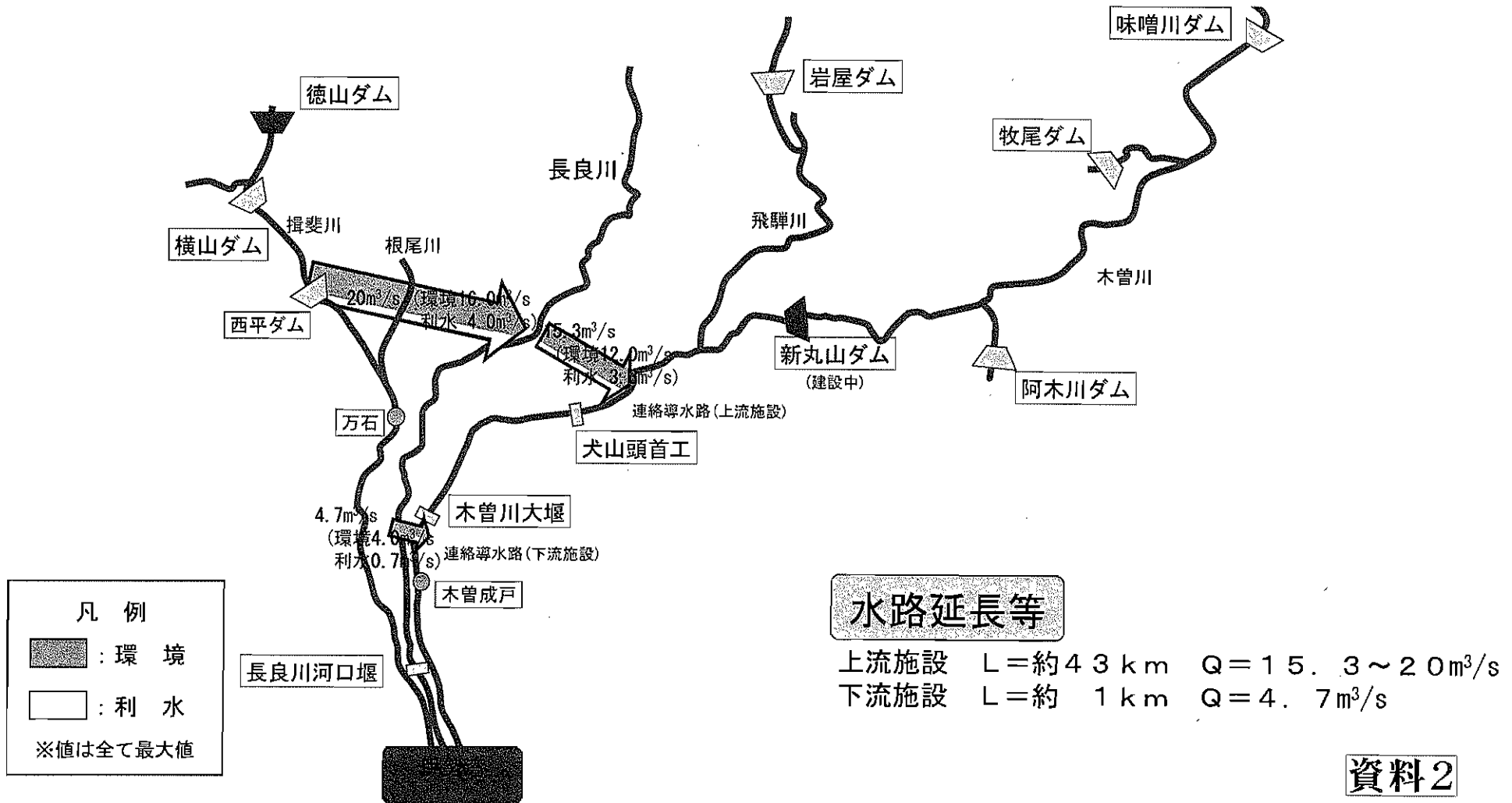
資料 1

木曾川水系連絡導水路事業の計画概要

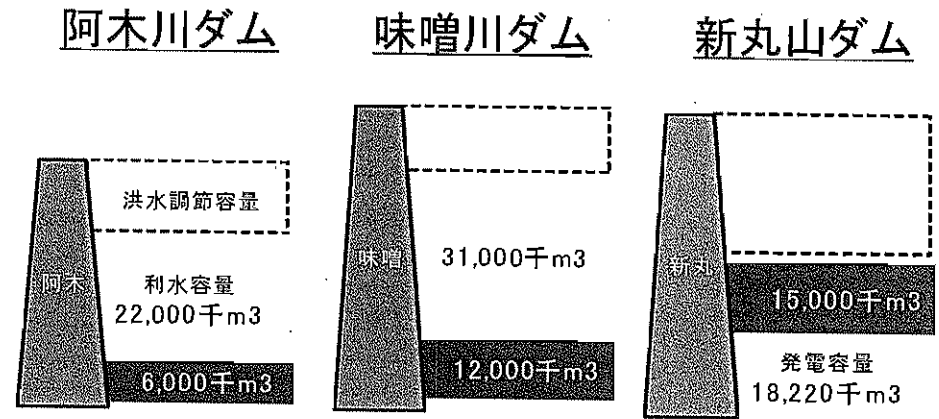
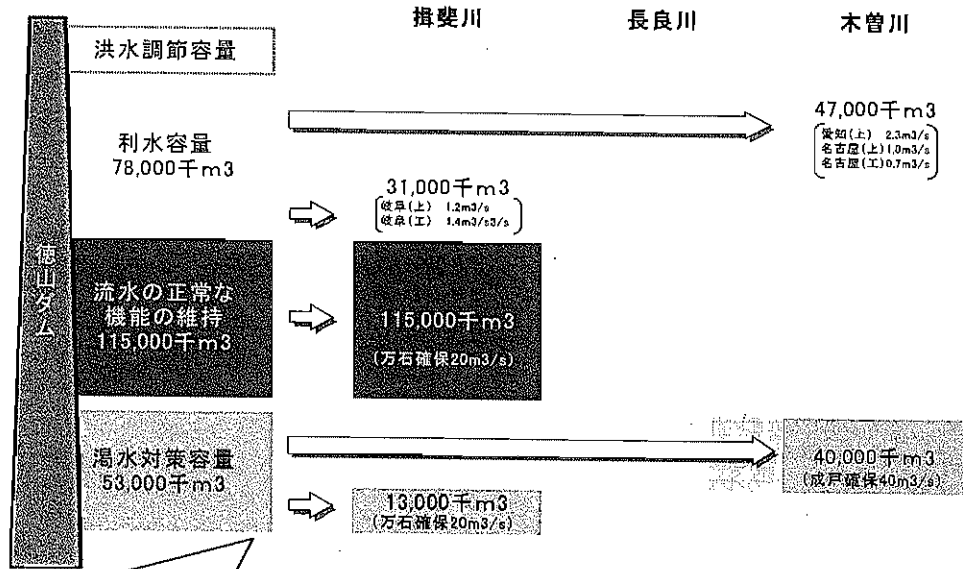
導水路のルート

導水路は、地形・地質上の制約、経済性、河川流況改善区間延長及び利水供給可能区域等から、揖斐川西平ダム付近から木曾川坂祝地区に導水することを基本とする。

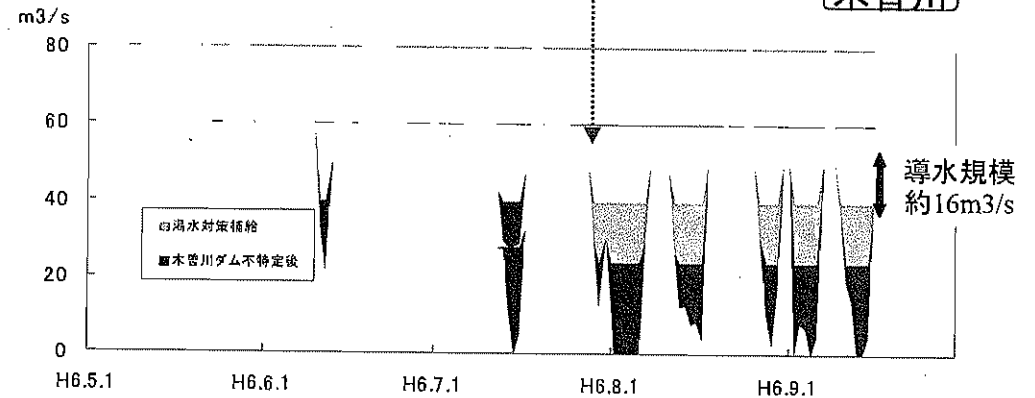
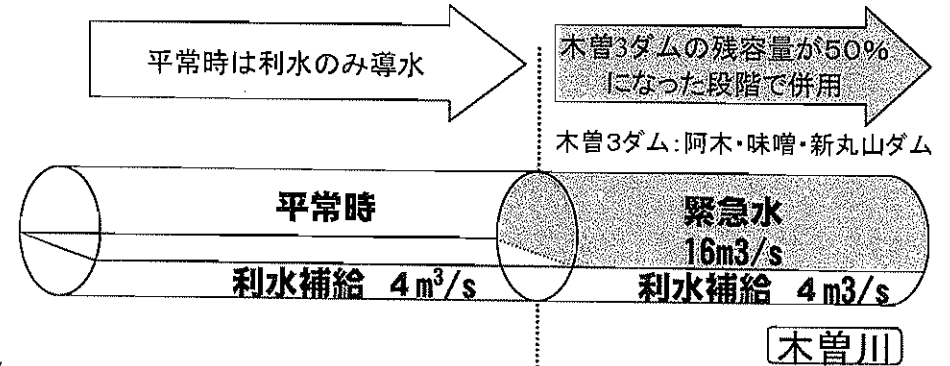
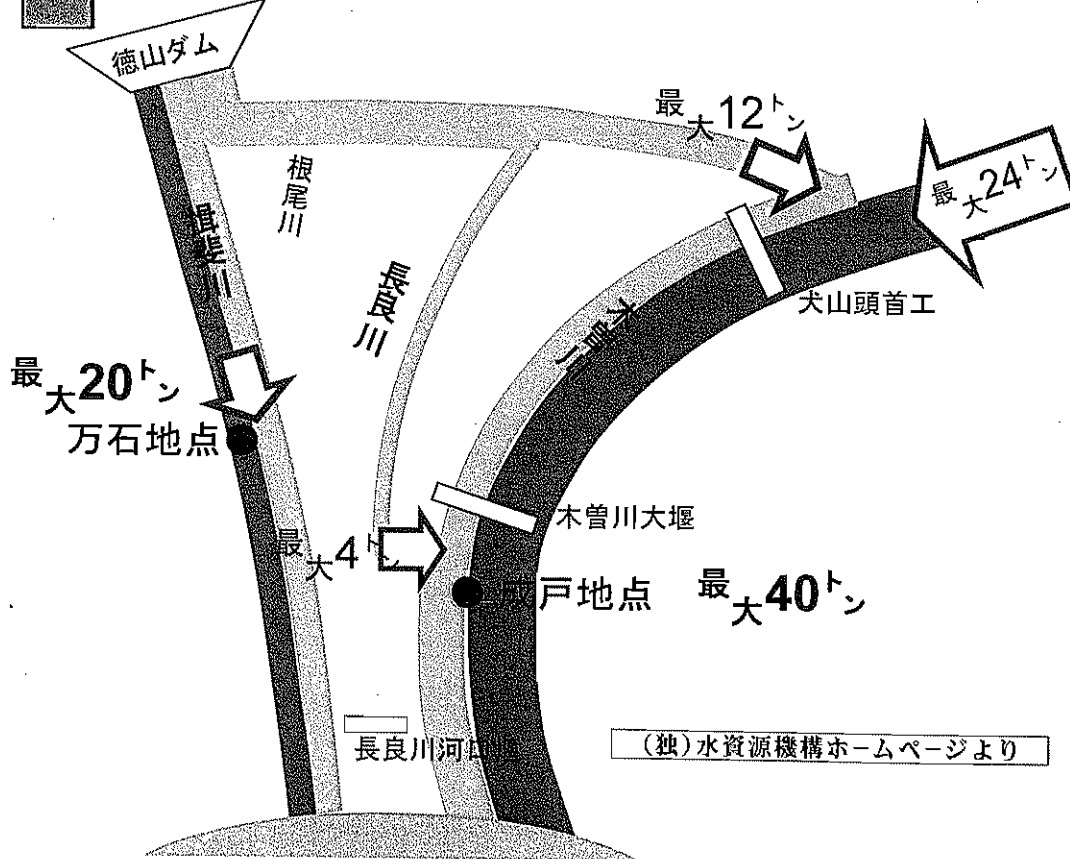
また、長良川中流部の河川環境の改善及び事業費の軽減を図るため木曾川への導水の一部を長良川を経由するものとする。



木曽川水系連絡導水路の使い方



木曽川3ダムの不特定容量からの補給



費用の負担割合(案)

木曽川水系連絡導水路事業 費用負担割合(案)

事業名	施設区分	費用	用途別	国	岐阜県	愛知県	三重県	名古屋市
木曽川水系連絡導水路	上流施設	880.0億円	治水	70.0%	30.0%			
				402.2億円	17.0%	75.5%	7.5%	
	下流施設	10.0億円	治水	70.0%	30.0%			
				6.0億円	17.0%	75.5%	7.5%	
	上流施設	880.0億円	利水			61.0%		39.0%
						186.3億円		119.1億円
下流施設	10.0億円	利水					100.0%	
							1.5億円	
合計	890.0億円	治水	45.9%	3.3%	14.8%	1.5%		
			408.2億円	29.7億円	132.1億円	13.1億円		
合計	890.0億円	利水			20.9%		13.6%	
					186.3億円		120.6億円	

※実際の費用負担額は費用全体に各負担割合を乗じて算出されるため、上表の値と異なる。

※名古屋市工業用水が取水するため、別途設備(4.5億円)がある。

資料4

(独)水資源機構ホームページより

濃尾平野の地盤沈下の状況(年間1cm以上の沈下面積)

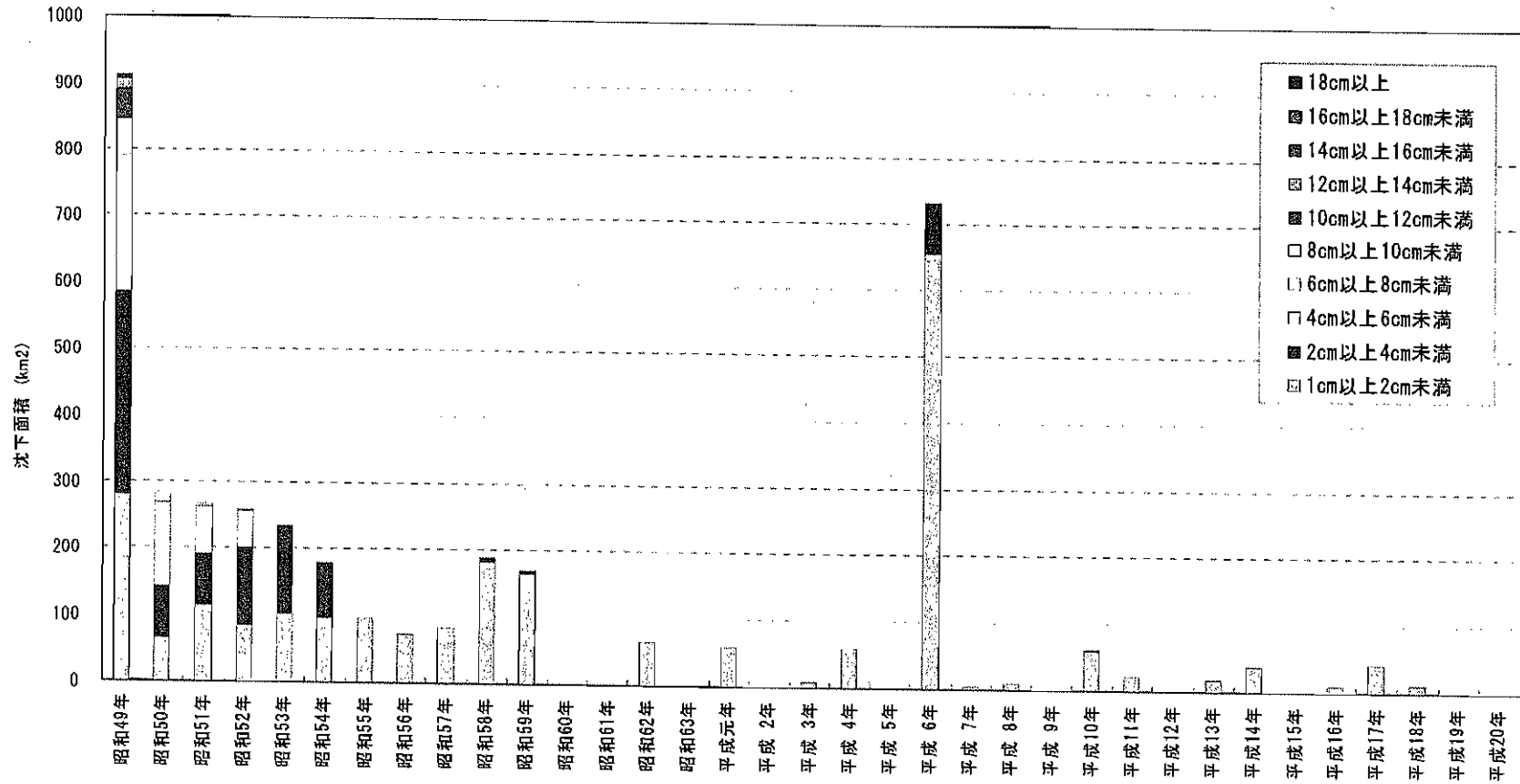


図-2(2) 年間1cm以上の沈下面積